



兵庫県は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

令和4年度

兵庫県内市町 市町財政の状況



1. 経常収支比率の状況

- 【資料 1】 令和 4 年度兵庫県内各市町の経常収支比率（単年度）の状況<地図> 1
- 【資料 2】 経常収支比率（単年度）の対前年度比較 2

2. 実質公債費比率の状況

- 【資料 3】 令和 4 年度兵庫県内各市町の実質公債費比率の状況<地図> 3
- 【資料 4】 実質公債費比率の対前年度比較 4

3. 将来負担比率の状況

- 【資料 5】 令和 4 年度兵庫県内各市町の将来負担比率の状況<地図> 5
- 【資料 6】 将来負担比率の対前年度比較 6

4. 財政調整基金残高の状況

- 【資料 7】 令和 4 年度末兵庫県内各市町の財政調整基金残高の状況<地図> 7
- 【資料 8】 財政調整基金残高の対前年度比較 8

5. 税徴収率の状況

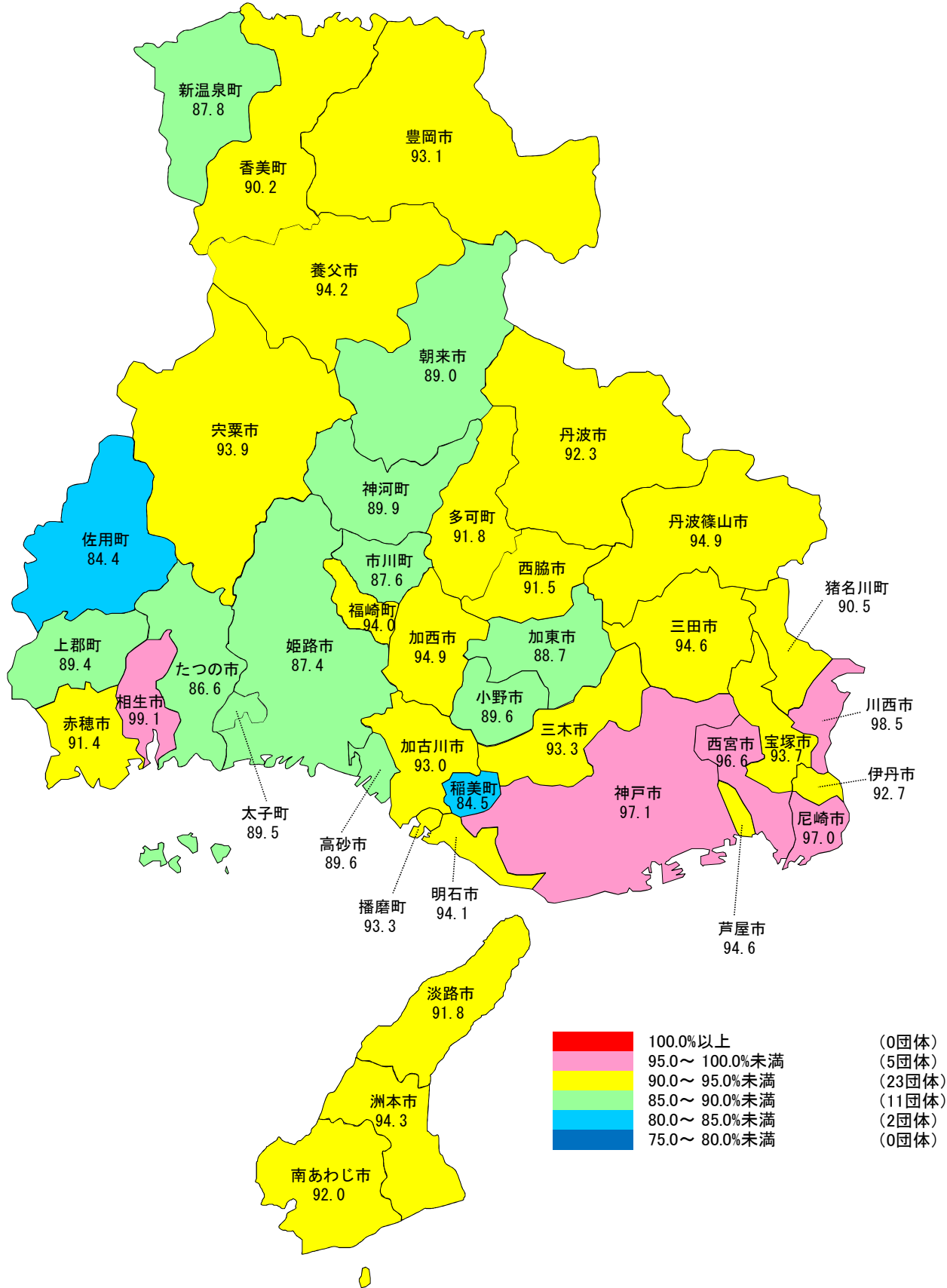
- 【資料 9】 令和 4 年度兵庫県内各市町の徴収率（個人住民税）の状況<地図> 9
- 【資料 10】 徴収率（個人住民税）の対前年度比較 10
- 【資料 11】 令和 4 年度兵庫県内各市町の徴収率（固定資産税）の状況<地図> 11
- 【資料 12】 徴収率（固定資産税）の対前年度比較 12
- 【資料 13】 令和 4 年度兵庫県内各市町の特別徴収実施率の状況<地図> 13
- 【資料 14】 特別徴収実施率の対前年度比較 14

※ 参考

- 【参考資料①】 令和 4 年度兵庫県内各市町のラスパイレス指数の状況<地図> 15
- 【参考資料②】 ラスパイレス指数の対前年度比較 16

令和4年度兵庫県内各市町の経常収支比率(単年度)の状況

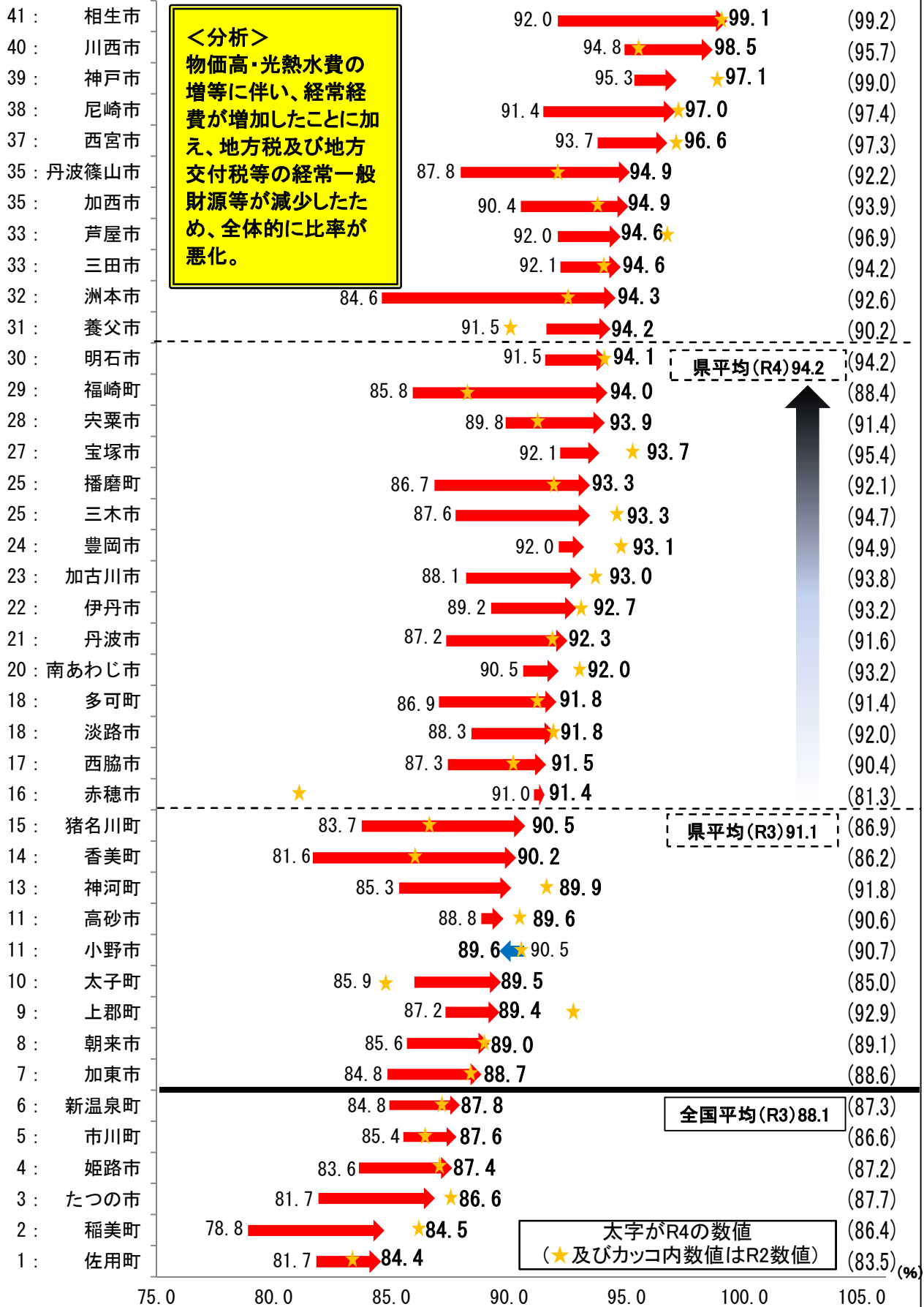
○経常収支比率の県内市町平均は、94.2%(R3県平均91.1%)
 ○経常収支比率が最も高い団体は、市では相生市(99.1%)、町では福崎町(94.0%)
 ○経常収支比率が最も低い団体は、市ではたつの市(86.6%)、町では佐用町(84.4%)



経常収支比率の対前年度比較

- 前年度から比率が増加したのは40団体、比率が減少したのは1団体。
- 最も増加したのは、市では洲本市(+9.7)、町では香美町(+8.6)。
- 減少は、小野市(▲0.9)のみ

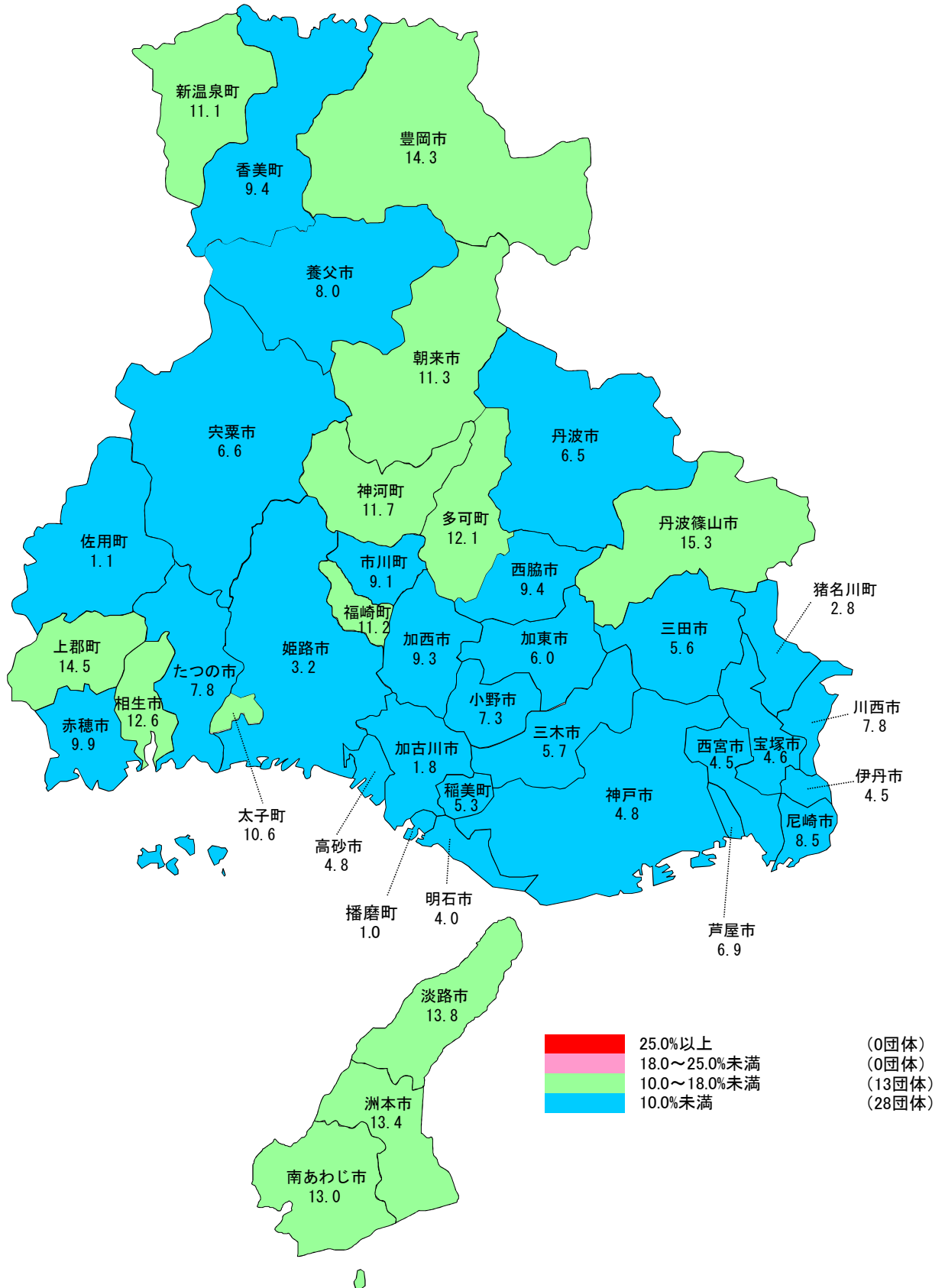
<分析>
 物価高・光熱水費の増等に伴い、経常経費が増加したことに加え、地方税及び地方交付税等の経常一般財源等が減少したため、全体的に比率が悪化。



太字がR4の数値
 (★及びカッコ内数値はR2数値)

令和4年度兵庫県内各市町の実質公債費比率の状況

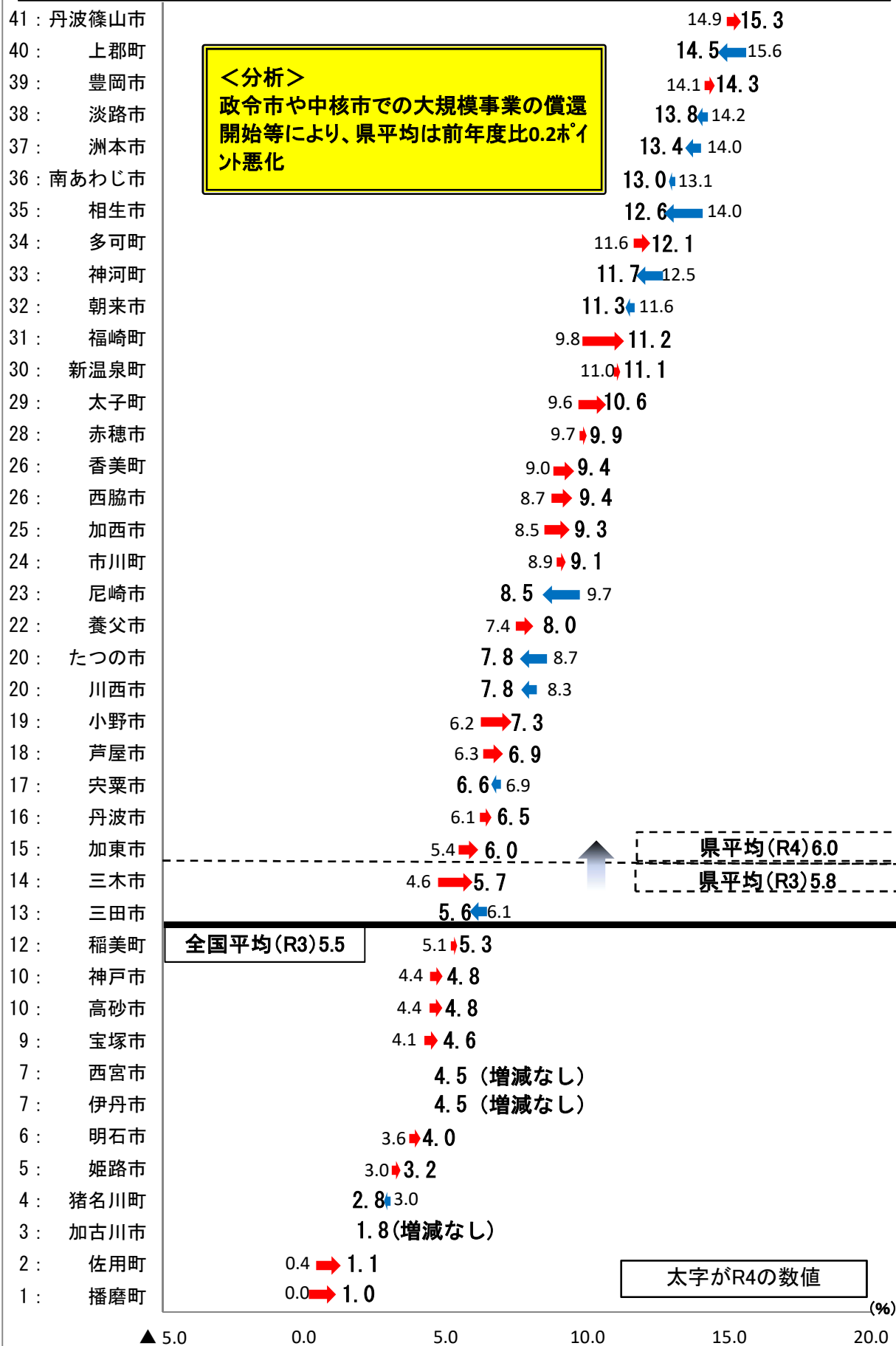
○実質公債費比率の県内市町平均は、6.0%(R3県平均 5.8%)
 ○実質公債費比率が25%以上及び18%以上の団体は、ない。
 ○実質公債費比率が最も高い団体は、市では丹波篠山市(15.3%)、町では上郡町(14.5%)
 ○実質公債費比率が最も低い団体は、市では加古川市(1.8%)、町では播磨町(1.0%)



※ 実質公債費比率25%以上35%未満の地方公共団体 : 早期健全化団体となり、財政健全化計画を策定し、その内容及び実施状況に応じて起債を許可
 ※ 実質公債費比率が18%以上25%未満の地方公共団体 : 公債費負担適正化計画の内容及び実施状況に応じ、起債を許可。

実質公債費比率の対前年度比較

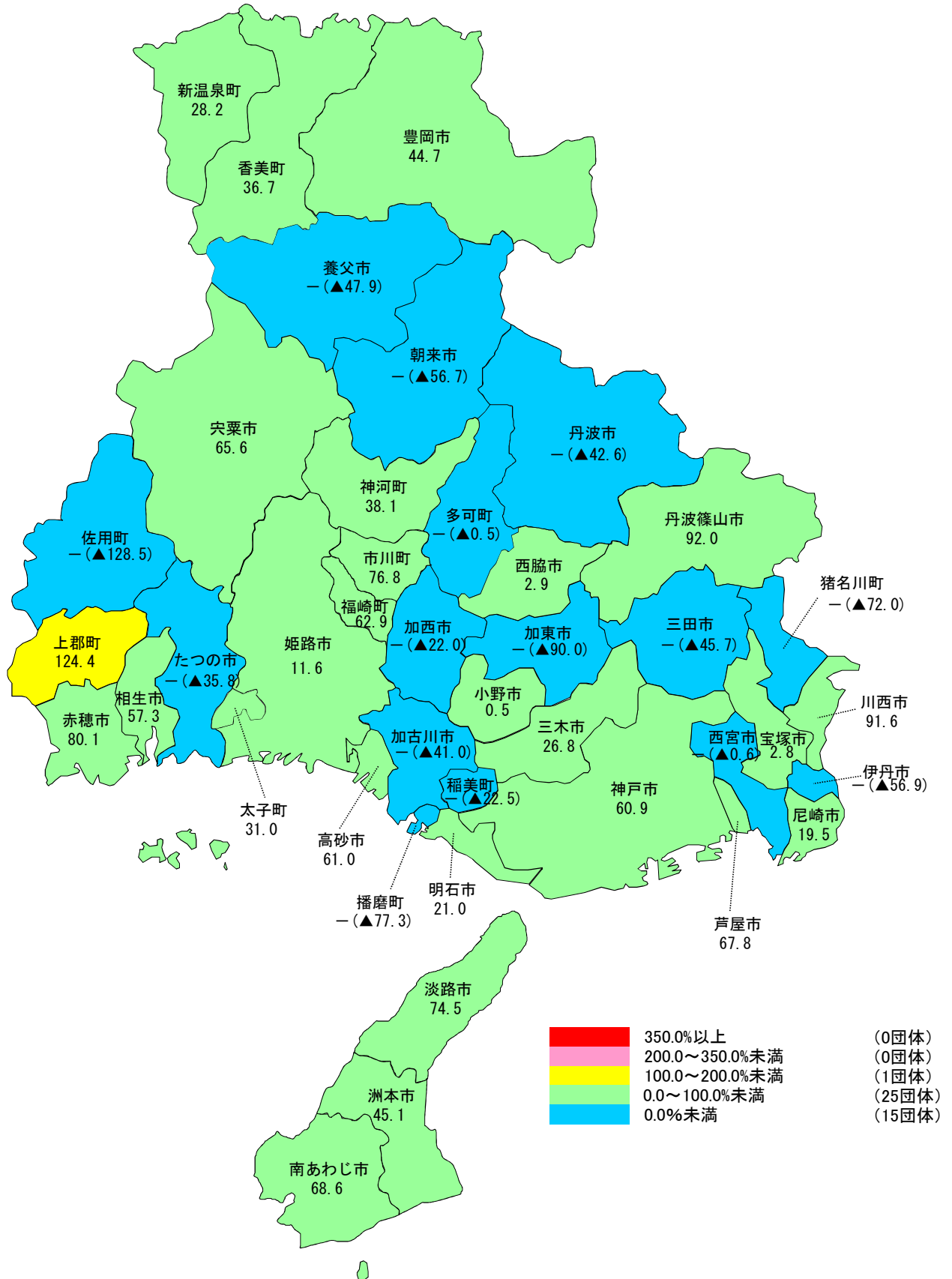
- 前年度から比率が増加したのは25団体、比率が減少したのは13団体、3団体が増減なし。
- 最も増加したのは、市では三木市、小野市(+1.1)、町では福崎町(+1.4)。
- 最も減少したのは、市では相生市(▲1.4)、町では上郡町(▲1.1)。



<分析>
 政令市や中核市での大規模事業の償還開始等により、県平均は前年度比0.2ポイント悪化

令和4年度兵庫県内各市町の将来負担比率の状況

- 将来負担比率の県内市町平均は、25.9% (R3県平均30.7%)
- 将来負担比率が350%以上(早期健全化団体)の団体は、ない。
- 将来負担比率が最も高い団体は、市では丹波篠山市(92.0%)、町では上郡町(124.4%)
- 将来負担比率が最も低い団体は、市では小野市(0.5%)、町では新温泉町(28.2%)

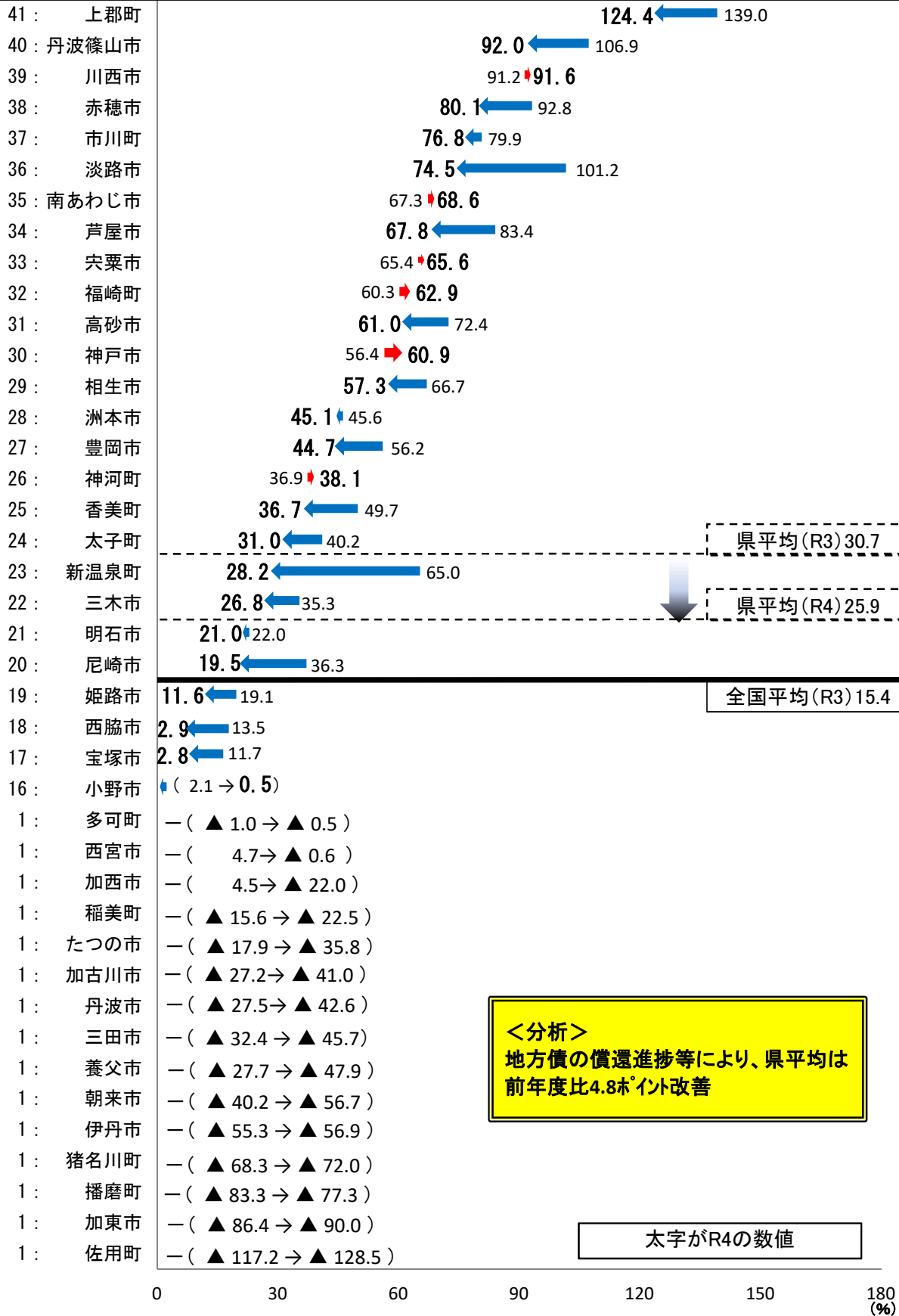


※ 将来負担比率が350%以上(政令市においては400%以上)の地方公共団体は、早期健全化団体となり、財政健全化計画を定めなければならない。
 ※ 将来負担比率について、公債費充当可能財源等が将来負担額を上回るため比率が算定されない団体は、「-」で表示。(括弧書きで、公債費充当可能財源等の超過率を参考表示。)

将来負担比率の対前年度比較

【資料6】

- 前年度から比率が増加したのは8団体、比率が減少したのは33団体。
- 最も増加したのは、市では神戸市(+4.5)、町では福崎町(+2.6)。
- 最も減少したのは、市では淡路市(▲26.7)、町では新温泉町(▲36.8)。

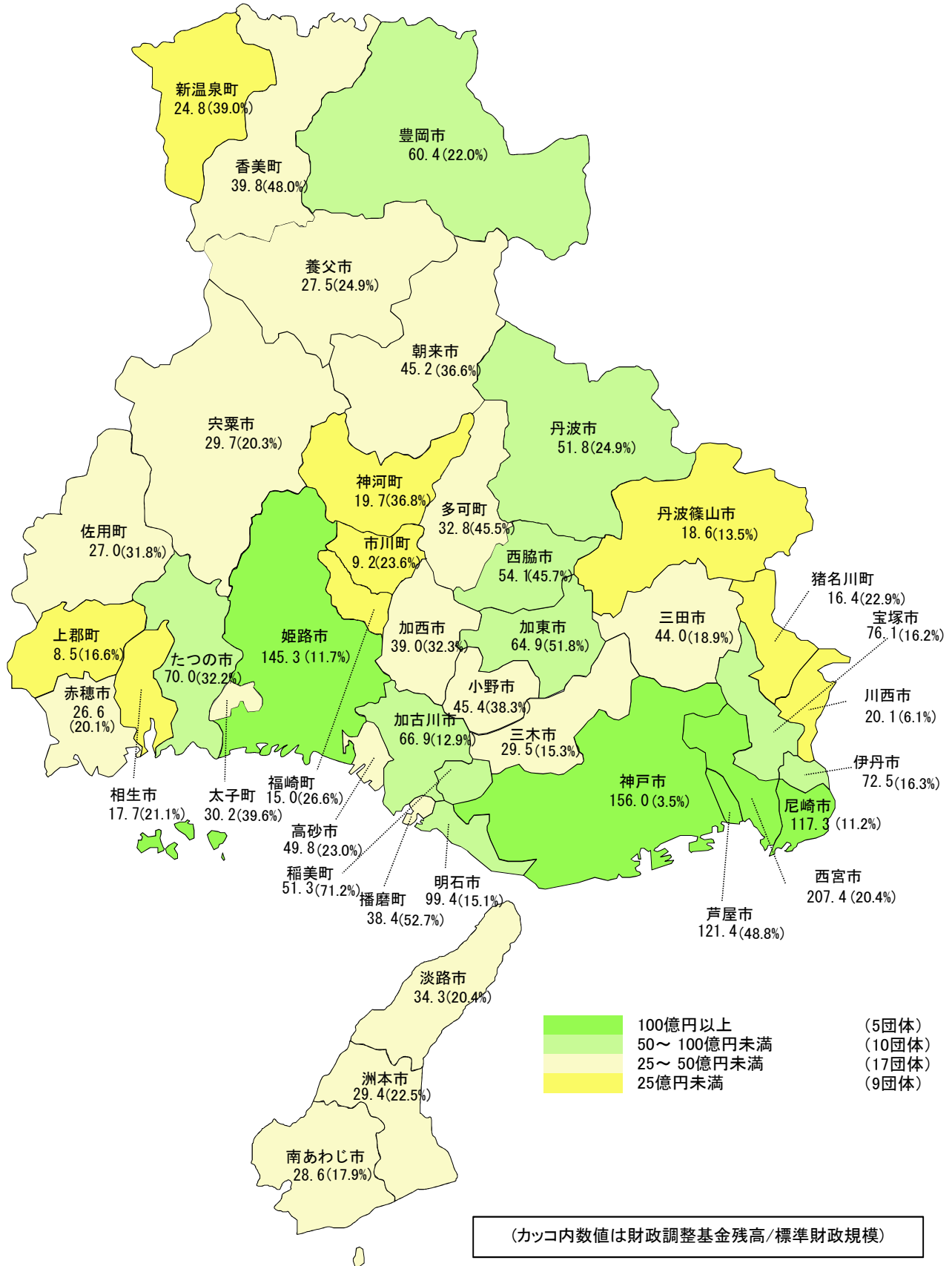


＜分析＞
地方債の償還進捗等により、県平均は前年度比4.8ポイント改善

太字がR4の数値

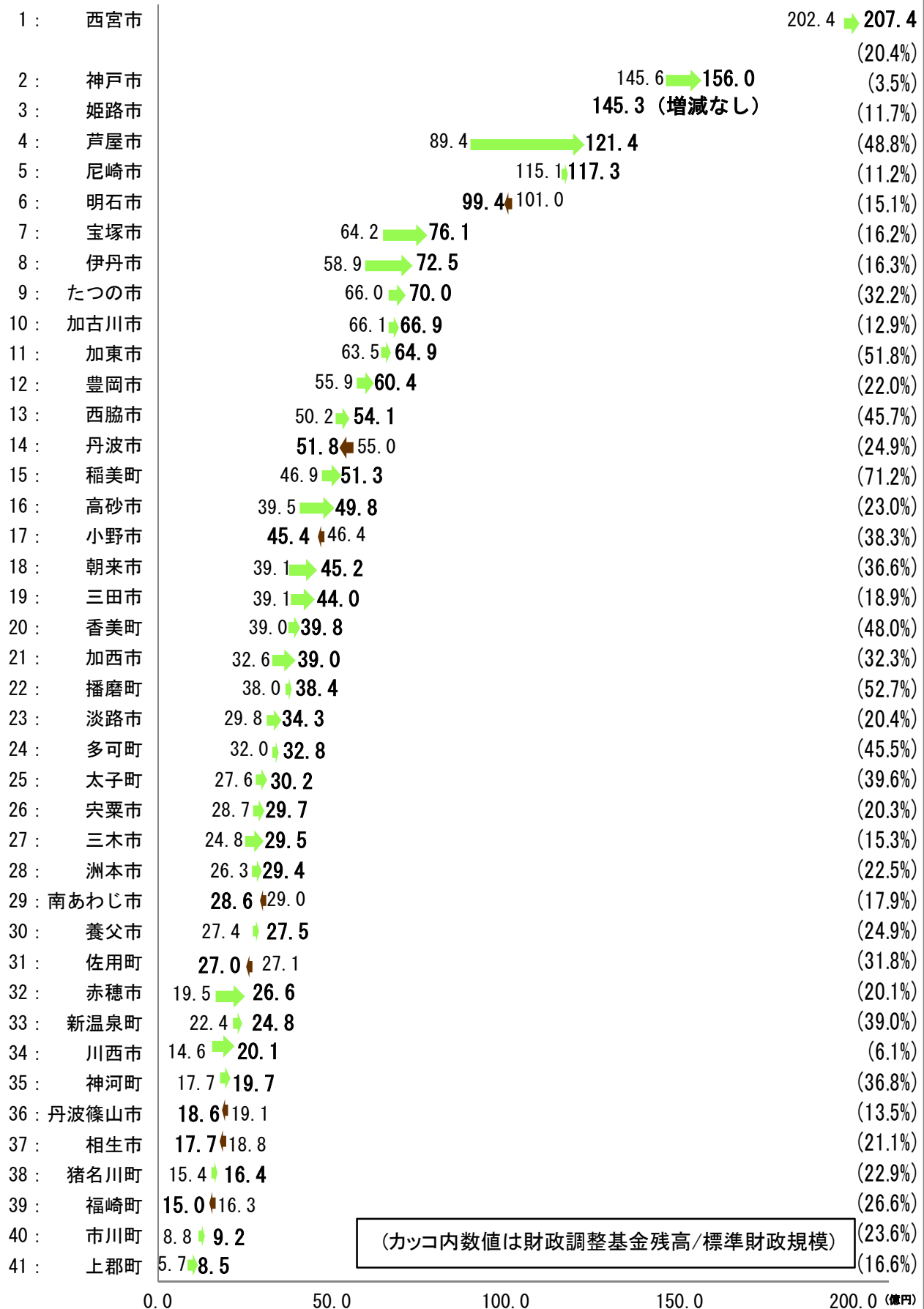
令和4年度末兵庫県内各市町の財政調整基金残高の状況

○財政調整基金残高の県内市町合計は、2,161.9億円
 ○財政調整基金残高が最も多い団体は、市では西宮市(207.4億円)、町では稲美町(51.3億円)。
 ○財政調整基金残高が最も少ない団体は、市では相生市(17.7億円)、町では上郡町(8.5億円)。



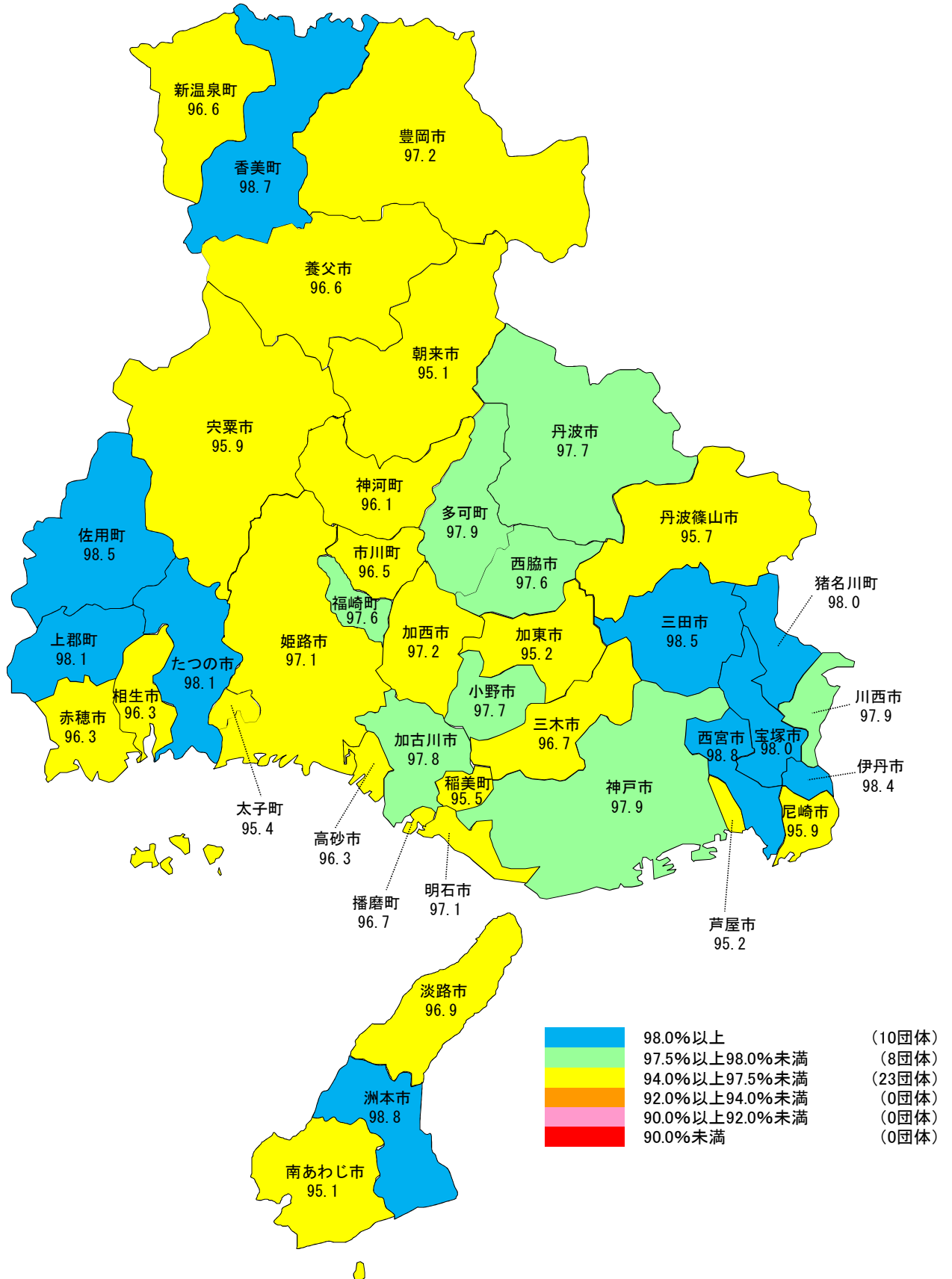
財政調整基金残高の対前年度比較

- 前年度から残高が増加したのは32団体、残高が減少したのは8団体、1団体が増減なし。
 ■最も増加したのは、市では芦屋市(+32.0億円)、町では稲美町(+4.4億円)。
 ■最も減少したのは、市では丹波市(▲3.2億円)、町では福崎町(▲1.3億円)。



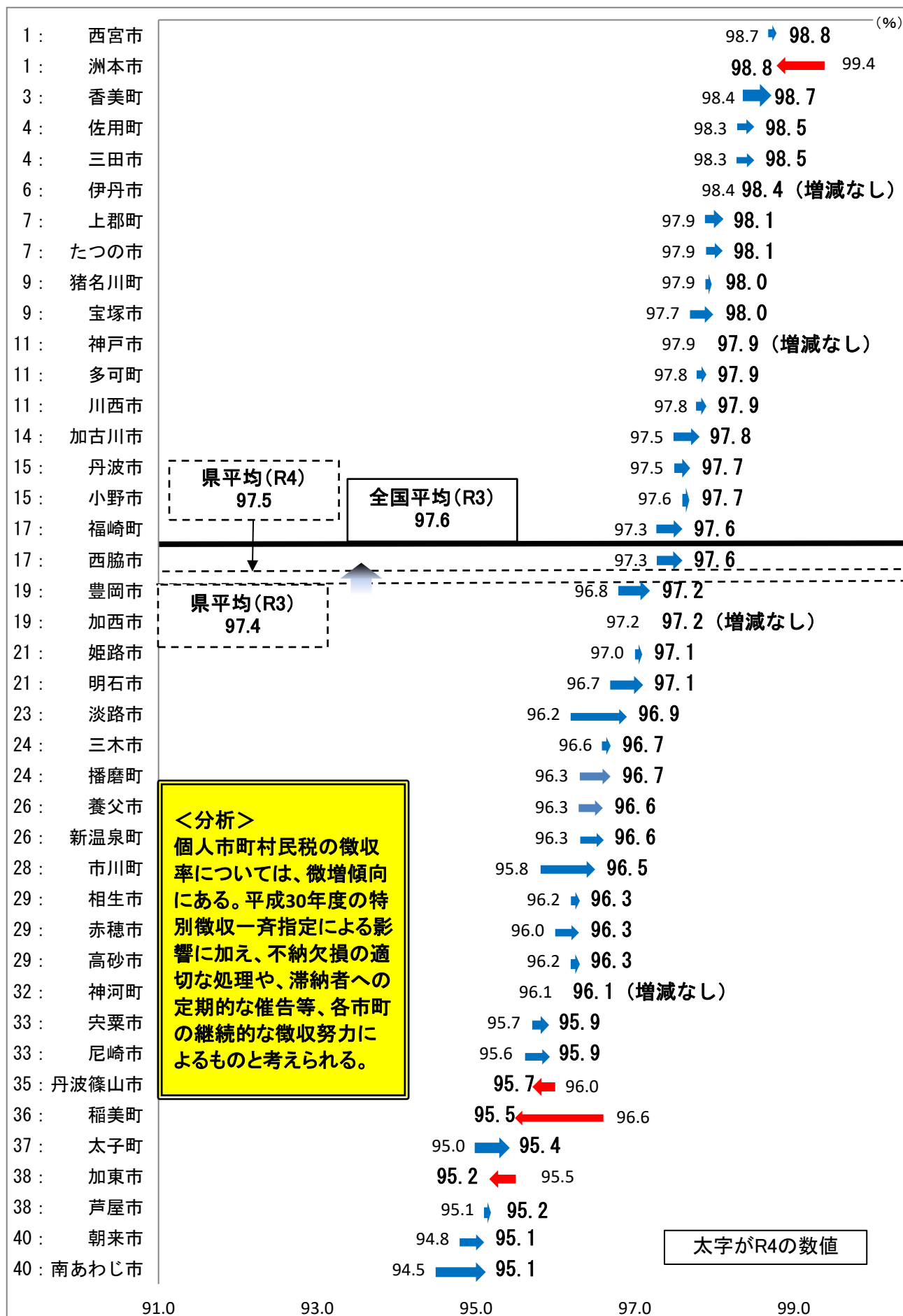
令和4年度兵庫県内各市町の徴収率(個人市町村民税)の状況

- 徴収率の県平均は、97.5%(R3県平均97.4%)
- 徴収率が最も高い団体は、市では西宮市、洲本市(98.8%)、町では香美町(98.7%)
- 徴収率が最も低い団体は、市では南あわじ市、朝来市(95.1%)、町では太子町(95.4%)



徴収率(個人市町村民税)の対前年度比較

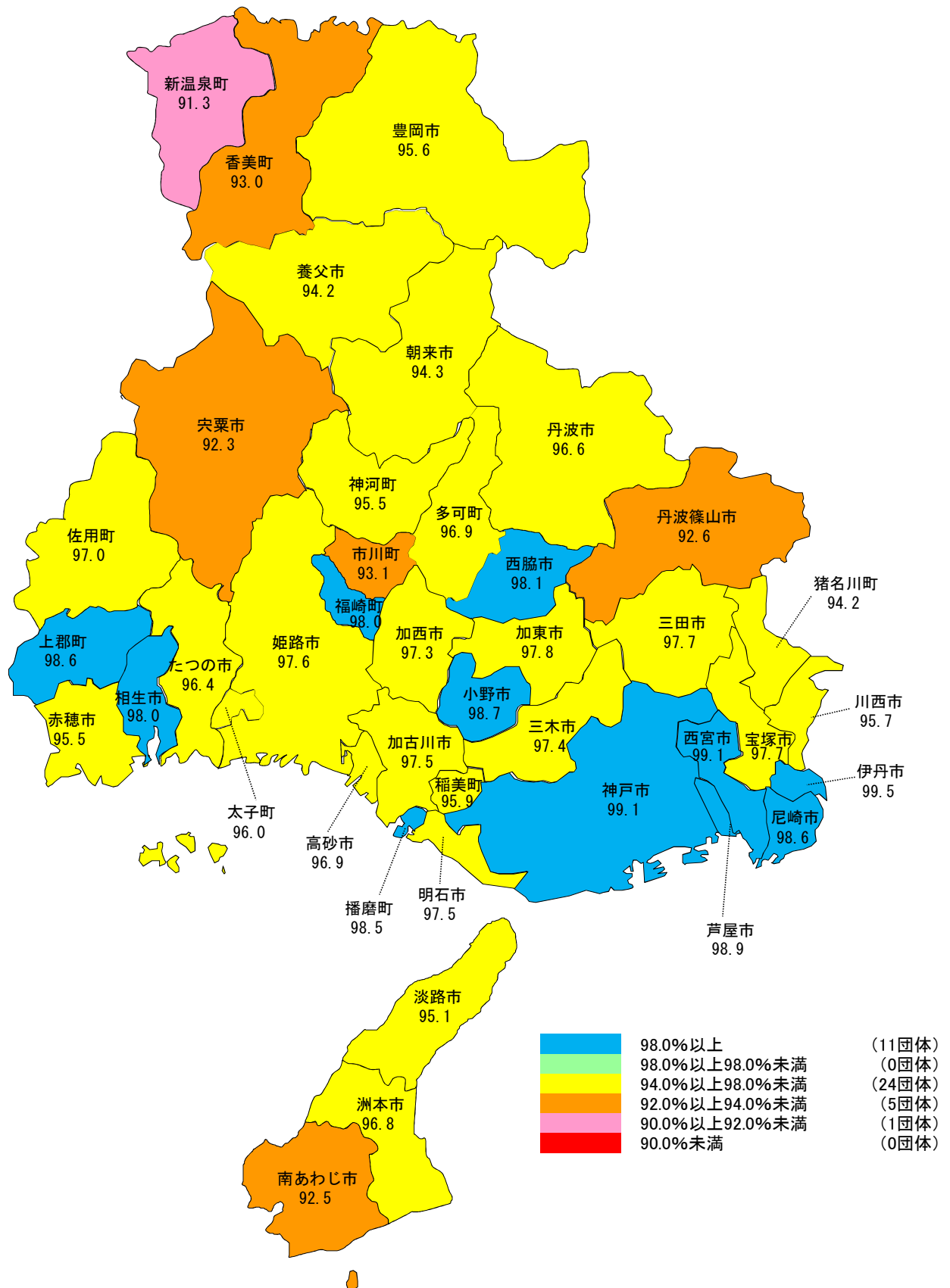
■前年度から比率が増加したのは33団体。
 ■最も増加したのは淡路市(0.7%)、最も減少したのは稲美町(▲1.1%)



＜分析＞
 個人市町村民税の徴収率については、微増傾向にある。平成30年度の特別徴収一斉指定による影響に加え、不納欠損の適切な処理や、滞納者への定期的な催告等、各市町の継続的な徴収努力によるものと考えられる。

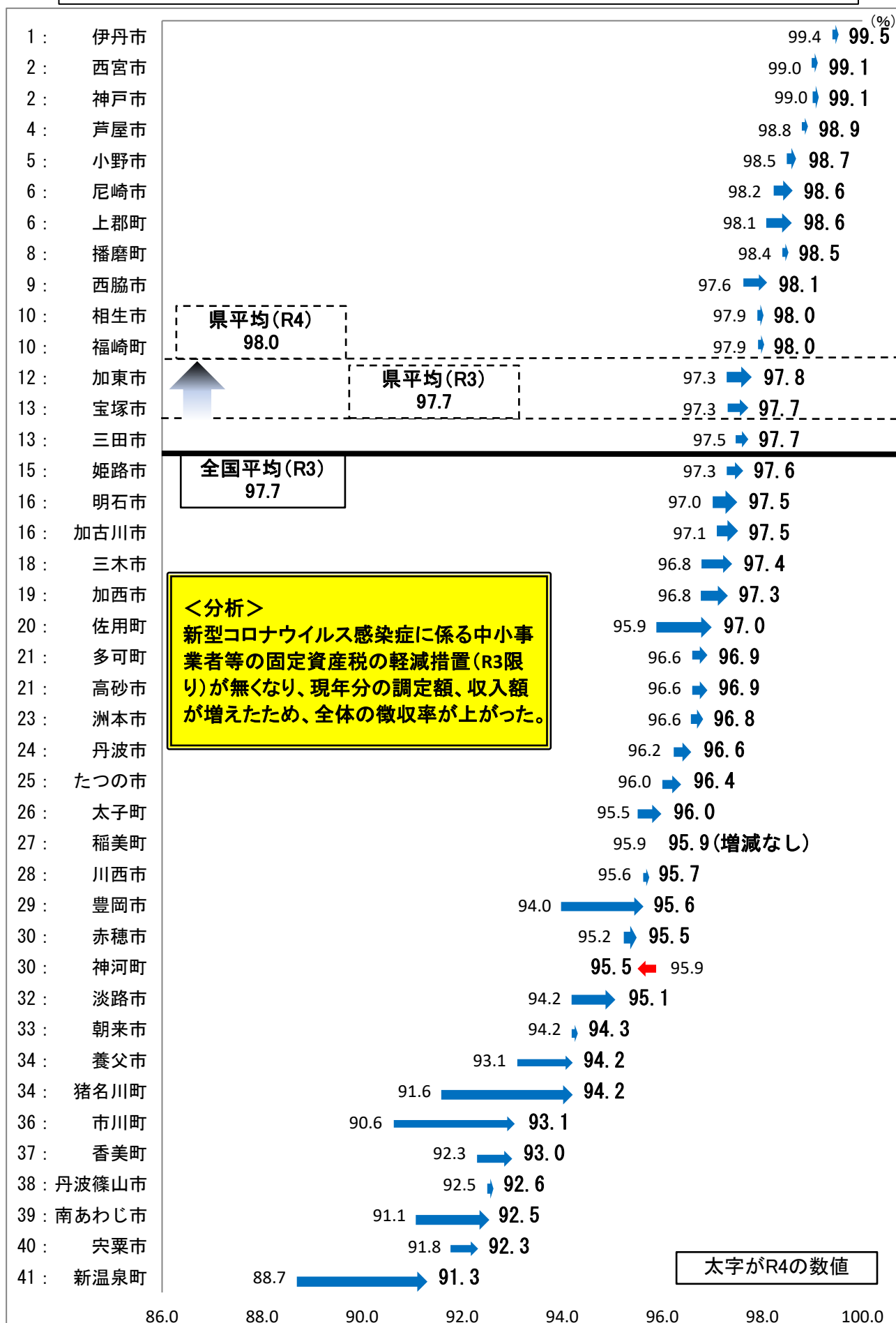
令和4年度兵庫県内各市町の徴収率(固定資産税)の状況

- 徴収率の県平均は、98.0%(R3県平均97.7%)
- 徴収率が最も高い団体は、市では伊丹市(99.5%)、町では上郡町(98.6%)
- 徴収率が最も低い団体は、市では宍粟市(92.3%)、町では新温泉町(91.3%)



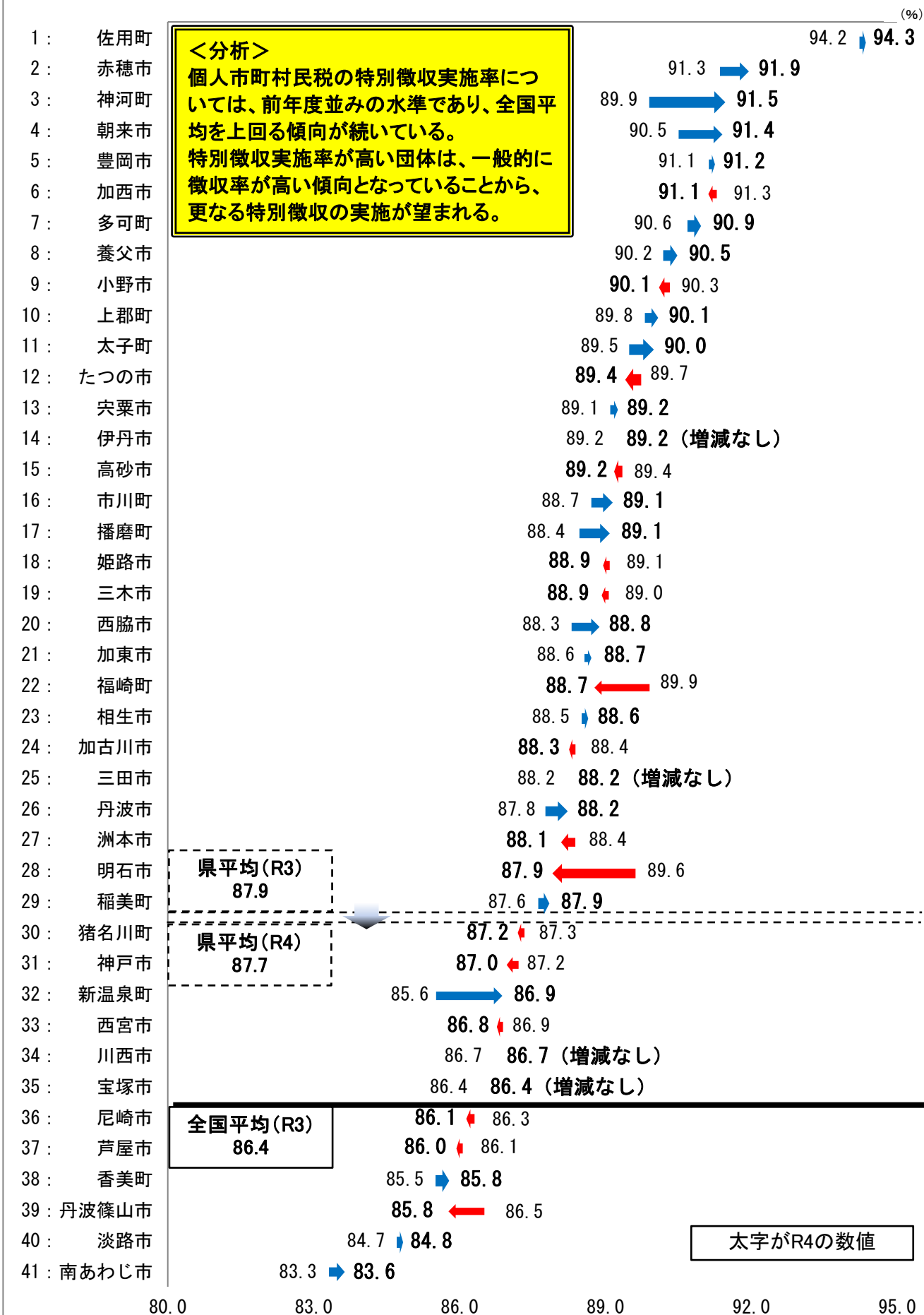
徴収率(固定資産税)の対前年度比較

■前年度から比率が増加したのは39団体。
 ■最も増加したのは猪名川町(2.6%)、最も減少したのは神河町(▲0.4%)



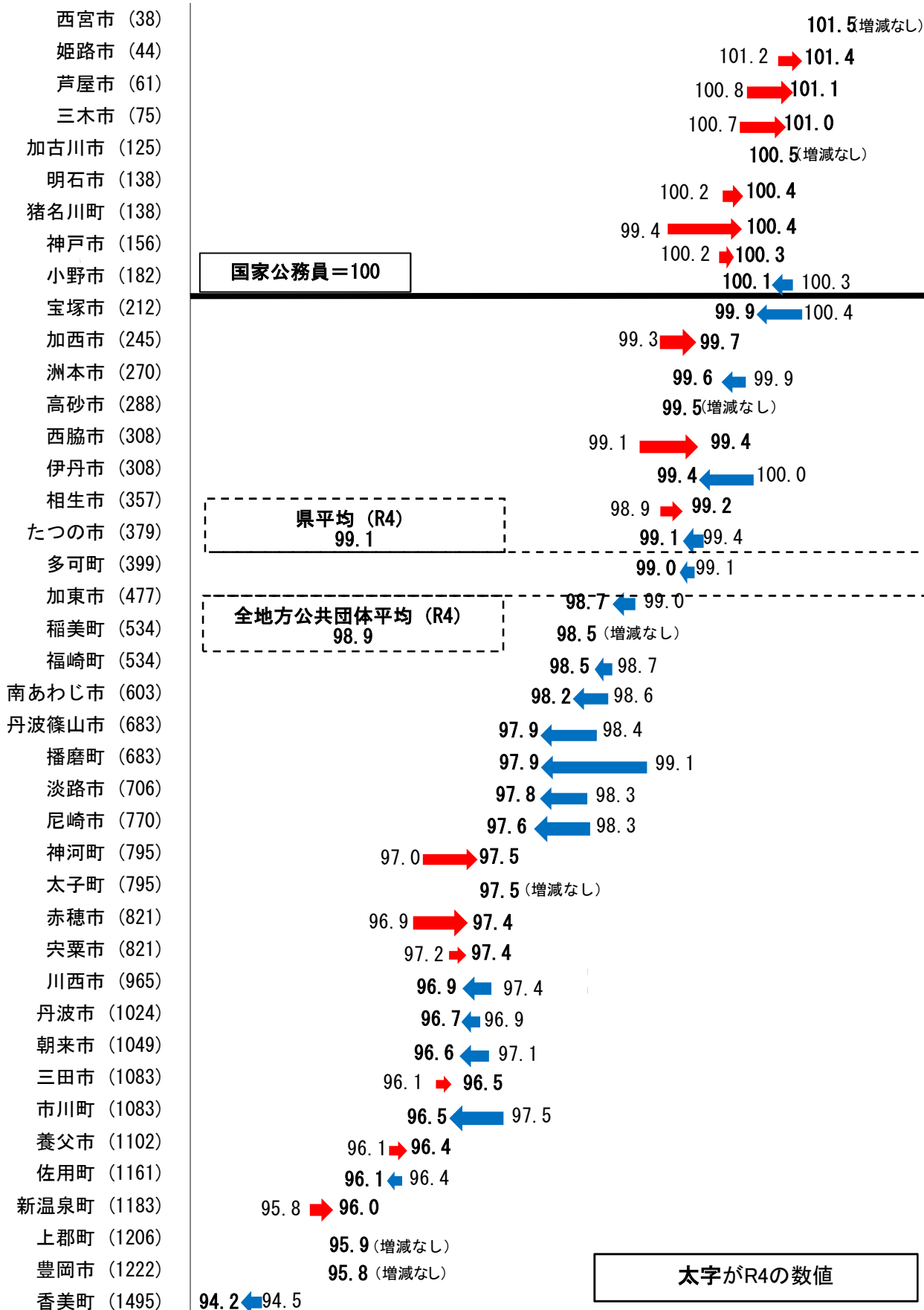
特別徴収実施率の対前年度比較

■前年度から比率が増加したのは21団体。
 ■最も増加したのは神河町(1.6%)、最も減少したのは明石市(▲1.7%)



令和4年ラスパイルス指数の対前年比較

■前年から指数が減少したのは19団体、増加したのは15団体
 ■100以上の団体は、前年比1団体減の9団体
 ■最も増加したのは猪名川町(+1.0)
 ■最も減少したのは播磨町(▲1.2)





Hyogo
Prefecture

令和5年9月

兵庫県総務部市町振興課